

令和6年度 県立石岡第一高等学校自己評価表（全日制）

目指す学校像	(1) 創立110年を超える歴史と伝統を受け継ぎ、学科の特色を生かし、地域における教育の中核として「魅力ある学校」「信頼される学校」となる。 (2) 生徒一人一人が個性を伸ばし、将来の夢を実現するための知識・技能を身に付け、自信と誇りを持てる学校となる。 (3) あらゆる教育活動の場面で、一人一人が輝く活力ある学校となる。				
三つの方針		具体的目標	評価		次年度(学期)への主な課題
三つの方針 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(1)進学に向けた組織的・計画的な指導を充実させ、生徒の学習意欲とキャリアデザイン力を育成する。 (2)授業の内容や方法を工夫・改善するとともに、生徒の主体的な学習習慣の定着と確実な学力の向上を図る。 (3)生徒の規範意識を高める指導と心の教育を充実させ、自己指導力や互いを尊重する態度を育成し、人間性の向上を図る。	A		・「主体的対話的で深い学び」を意識し「学びに向かう力」が定着する授業改善を推進する必要がある。 ・大学進学実績を質量ともに高めていく必要がある。 ・公共の場でのマナーを向上させる必要がある。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(1)地域の教育力を活用し、多様な学びを取り入れた教育課程の編成・実施 (2)生徒の興味関心を最大限引き出し、生徒が主体的に活動する授業の実践 (3)「総合的な探究の時間」を充実させ、大学等との連携や教科間連携をした探究型の学習の展開 (4)豊富な地域人材を活用したキャリア教育の展開 (5)進学から就職まで多様な進路に柔軟に対応する指導の充実 (6)学校行事や課外活動、ボランティア活動等のさまざまな体験を通じて、主体性と協働性を養う学習機会の充実	A	A	・課題解決型学習やタブレットを活用した授業展開をより推進する必要がある。 ・教科等横断的総合的な学習をより推進する必要がある。 ・農業系の実習の充実や資格取得をより推進する必要がある。
	「入学者受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(1)学習意欲があり、基本的生活習慣や規範意識が身についている生徒 (2)他人の考えを尊重し、人の意見を素直に聞くことができる生徒 (3)生徒会活動や部活動、地域活動等に対して、積極的のチャレンジできる生徒 (4)自分の考えを様々な場面で発表し、表現する意欲を持っている生徒 (5)身につけた専門性を生かし、農業や産業の担い手として、地域を支えるリーダーとして社会に貢献しようとする気概を持った生徒	B		・入学希望者や中学校関係者に対し、学校が期待する生徒像をわかりやすく明示していく必要がある。 ・園芸科、造園科の魅力や進路決定状況を発信し、入学希望者の増加を図る。

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
学習指導の充実と部活動の振興を目指して教育活動を実践し、生徒一人ひとりを大切に する指導に努めた。 令和6年度入試では、国公立大に現役で35名 (昨年度25名)が合格した。県内の国公立大学 では筑波大1名、茨城大7名、県立医療大1名 が現役で合格。また、立教大、明治大、青山学 院大などの私立大学にも合格した。来年度も国 公立大学30名以上の合格を目指しつつ、難関 大学合格者数アップを目指す。就職では、公務 員3名、地元企業等に37名が合格し、本年度 も学校推薦による内定率100%を達成した。 部活動においては、ウェイトリフティング部と 弓道部が全国大会出場、バドミントン部が関東 大会出場を果たした。また、文化部においても 県総合文化祭をはじめ多くの催しへ参加した。 本年度も、多くの部活動が大会上位入賞の実 力があり、本県の代表となる期待が持てる。 農業学科においては、専門教育の充実に努め、 農業クラブの関東大会や全国大会出場を果たし たり、地域貢献活動も積極的に行っている。 今後も、生徒一人ひとりが人間性と学力を向上 させ、充実した高校生活を送り、進路希望を実 現できるよう、さらに指導の充実を図ることが 重要である。	全学科	学力向上	(1) 授業時間数と授業時間の確保に努める。 (2) 授業方法を改善し、「主体的・対話的で深い 学び」を推進する。 (3) 自学自習・家庭学習習慣の定着を図る。 (4) 「生活・学習プランニング力」の向上を図 る。 (5) 総合的な探究の時間の展開を研究し、改 善する。特別支援教育を推進する。	B
	進路希望の実現	(1) 組織的・計画的指導を推進し、希望する 進路の実現を目指す。 (2) 個別面談を充実させ、進路希望を明確に する。 (3) 課外授業等の計画的実施と主体的な学習 活動を促進する。 (4) 地域活動への参加を促し、社会的実践力 を養成する。 (5) キャリアデザイン力を育成し、生徒の意欲 ・能力を高める。	B	
	基本的生活習慣の確立と規範意識の定着	(1) 生徒に社会性を意識させ、挨拶や身だし なみの指導に努める。 (2) いじめや体罰のない「安心・安全な学校 づくり」に努める。 (3) 教職員間の情報共有を図り、家庭や関係 機関との協力・連携に努める。	B	
	特別活動の充実	(1) 生徒の企画・運営力を高め、主体的な活 動を促進する。 (2) 学校行事での生徒の積極的な取組を促進 する。 (3) 部活動の充実を図り、生徒の向上心や達 成感を促進する。	A	
	専門教育の充実と地域との連携	(1) 幅広いニーズに応えられる魅力ある学習 内容を取り入れる。 (2) 農業クラブやプロジェクト学習を充実さ せ、大会入賞者や上級資格合格者を増やす。 (3) 開放講座や収穫祭等を通して、地域と連 携した専門教育を推進する。	A	
	外部への情報発信	(1) HPや新聞等のメディアを活用し、保護者 や地域に積極的に情報発信する。 (2) 学校説明会や中学校訪問の実施により、 中学生対象の広報活動を推進する。 (3) 地域に開かれた学校づくりを推進する。	A	
	教員の服務規律の遵守と働き方改革の推進	(1) 日頃のコミュニケーション等を通して教 職員の良好な関係を作り、学校諸課題に「チ ーム」として対応する組織づくりをさらに進 める。 (2) ICTの活用により、職員会議、成績処理、 教材準備の効率化を図る。 (3) コンプライアンス意識を持って行動する。 (4) PDCAサイクルによる評価・改善を行い、 働きやすい職場作りに努め、働き方改革を推 進する。	A	

		授業改善の推進	(1) 生徒の学び（授業観・学習観）とともに教師自身の学び（研修観）を転換し、個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。 (2) 教師一人一人が、生徒による授業評価（「中間評価」等）をもとに日々適切に授業改善をする。 (3) 学校の目標として、「生徒による授業評価（「最終評価」）」の各項目における「学校全体の評価平均」を「3.0」以上とする。	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への課題
国語	基礎的な言語能力の定着を図り、言語感覚を磨く。	HRや授業時間を利用して、漢字・語句・一般常識等の小テストを実施する。	A	B	・主体的で対話的な深い学びのために、単元設定や教材の活用についての工夫を図る。 ・言語活動の充実のために、学校図書館やICTを活用した授業についての情報共有を図るとともに、研究を重ねる。
		積極的に辞書や文法書・副教材を活用する授業を行う。	A		
		授業において小論文練習の時間を意図的に作り、小論文模試を実施して、自己表現力を育成する。	A		
		スピーチやプレゼンテーション、意見文作成等の言語活動を授業に取り入れるとともに、生徒による授業評価等をもとに日々授業改善に努める。	B		
	思考力を伸ばし、想像力を養い、心情を豊かにする。	表現力を養うために、主体的で対話的な学びを取り入れた授業を積極的に行う。	B		
	情報化・国際化時代に対応できる力を培う。	副教材や視聴覚教材等を活用して、古典の世界に視覚的・聴覚的に親しませる。	A		
		学校図書館の資料やインターネットを通して得た情報を随時取り入れて授業を展開する。	B		
	進路希望を実現するための国語力を涵養する。	学科別・コース別に教材内容を吟味し、指導方法を工夫する。	A		
		3年間を見通して、順次難度を高めた問題演習を行い、実力養成に努める。 補習・課外・個別指導等で、進路希望に沿って丁寧に対応する。	A		
地歴公民	歴史的・地理的事象に関心を持ち、国際社会の変化に対応できる知識・考察力を身に付ける。	歴史的事象を複眼的に考察し、因果関係を考えさせる。	A	B	・歴史的・地理的事象ならびに現代社会における諸問題位について、さらに深く掘り下げて学び、かつ、協働によりその言語化を進める必要がある。 ・すべての学年について、主権者として・主権者になる者として多面的・多角的な学びを深めていく必要がある。
		地図や資料を活用し、地理的特徴を把握させる。	A		
		現代の国際社会における政治経済の仕組みを理解させる。	A		
	多様な方法を駆使し、現代社会の諸問題を考察し、主権者として主体的に、よりよい生き方を追求する。言語活動の充実を図り、表現する能力を身に付ける。	ICTを活用して自ら調べ、多面的・多角的に考察させる。	A		
		社会参加の方法を考えさせ、青年の生き方を追求させる。	B		
		言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を問う問題を出題する。	A		
		生徒の学びとともに教師自身の学びを転換し「主体的・対話的で深い学び」を実現する。	B		
	進路を実現するための実力を養成する。	共通テストを意識して、授業・課外等を充実させ、進路が実現できるように指導する。	B		
		生徒による授業評価をもとに日々授業改善し、進路実現のための実力を養成する。	B		
	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、表現・	週末課題や長期休業中の課題、生徒への声掛けを通して家庭学習の時間が増えるよう促す。		A	・言語活動の充実を図り「主体的・対話的で深い学び」を

数 学	処理する技能を身に付ける。 数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表現する力を養う。 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。	授業での発表を通して自ら考え、根拠を持って自分の考えを表現する経験を増やす。	B	A	意識し「学びに向かう力」が定着するよう授業改善をする。 ・ICT を活用した授業展開について研究する。 ・大学進学実績を高められるよう養成する。
		模擬試験の分析や、教科内での情報交換、教材研究を行い、指導に活かす。	B		
		平日の課外や、長期休業中の課外、副教材の活用、模擬試験への対策を通して、大学入試に対応できる学力を伸ばす。	A		
		主体的・対話的な学習活動を通して、論理的に考察し、判断することができる能力を伸ばす。また、生徒による授業評価等をもとに日々授業改善に努める。	B		
		定期的に小テストを行い、基礎学力の向上をはかる。	A		
		授業準備やチャイム着席を徹底し、望ましい態度を育む。	A		
理 科	基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける。	補助教材に計画的に取り組ませる。	A	A	・科学的思考力育成のために、言語活動やペアワークの機会を増やす。 ・新課程科目について、ICT活用や生徒実験の回数を増やすなどより一層の教材工夫を図る。
		定期的に小テストを行う。	A		
		生徒による授業評価をもとに日々授業改善に努める。	A		
	科学的に探究する力を養う。	実験や観察等を取り入れた授業を展開する。	B		
保 健 体 育	科学的思考力・判断力・表現力等を身に付ける。	日常生活と関連した課題を用いて、ペアワークやグループ活動等、言語活動の充実に焦点を当てた活動を行う。	A	A	・生徒の主体性や思考力を育むための活動や話し合い活動の機会を増やしていく。 ・生徒が主体的に体力の向上を行えるような課題を設定し、運動の楽しさを感じられる授業内容にしていく。
芸 術	運動の合理的な実践を通して生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる。また、集団活動のなかで、ルールを守ることの大切さ、生徒間で協力し合いながら主体的に活動することができる態度を育てる。	【保健】個人及び社会生活における健康、安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	A	A	・生徒の主体性や思考力を育むための活動や話し合い活動の機会を増やしていく。 ・生徒が主体的に体力の向上を行えるような課題を設定し、運動の楽しさを感じられる授業内容にしていく。
		【体育】 各種の運動の合理的な実践を通じて運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、体力の向上、公正、協力、責任などの態度を育てる。また、授業におけるルールを遵守させ、練習や試合などを話し合いながら企画・運営する活動を促進する。	B		
芸 術	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。	様々な活動を数多く体験することにとどまらず、生徒一人一人が内発的な動機に基づきながら、表現活動や鑑賞活動に主体的に関わることができるようにする。	B	A	・主体的、対話的で深い学びとなるような教材研究の工夫を図る。 ・多角的な学びにつながるよう授業改善をする。
		創作活動の中で個々の芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ、新たな価値を見いださせたりなどし、創造的な能力を高める。	A		
		我が国及び諸外国の芸術文化に対する理解を深め、尊重する態度を育成する。	A		
	語彙や文法など、基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける。	単語テストや例文の暗唱テストなどの小テストを定期的に行い、基礎学力の向上を図る。	A	B	・予習や自主学習習慣を定着させるため、ノートやワークシートの添削頻度を上げる ・スピーキング活動の機会を増やし、パフォーマンステストを積極的に実施する。
		予習・復習の習慣の定着のため、ノートの取り方の指導・定期的に点検する。	B		
		英文法の効果的な理解のために、文法を体系的にまとめた副教材等を使用し、問題演習も十分にを行い、進路に対応できる学力を育成する。	A		
		英語検定準2級～2級の取得を推奨し、英作文やリスニング指導の充実を図る。	A		
	聞いたことや読んだことを	教科書以外にも、総合問題集・長文問題集・新テストに対応した教材を使用し、速く、正	A		

英 語	理解し、情報や考えなどを伝える能力を養う。	確な読解力の育成に努める。		
		リスニング教材を3年間通して使用し、継続的にまとまった英文を聞く力を伸ばす指導をする。	A	
		授業中にクラスルームイングリッシュを積極的に使い、インタラクティブな授業展開をする。	B	
		スピーチやレポート作成などを随時行い、能動的に英語を使用する場面を増やす。	B	
	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	ペアワークやグループワークを積極的に取り入れる。 ALT との交流を多くし、進んでコミュニケーションをとろうとする態度を育成する。	B A	
家 庭	家庭や地域における生活の充実・向上を図る態度を育てる。	現代社会の現状や課題を理解し、調べ学習や各々の考え方を共有するうえで ICT を効果的に活用し、生活を営む確かな考え方の定着や多様な考え方を受け入れる態度の育成に努める。	A	B
	基礎的な知識や技術を身に付ける。	体験学習および実験・実習を通し、基本的な知識や技術と科学的に探究する方法を身に付け、自立に向けて家庭生活で応用できる力を育成する。	B	
	自己実現を志向して主体的に生活を創る能力を養う。	日々の生活の中での課題を見つけ、解決する能力を育成するとともに、家庭及び地域社会の一員としての役割を果たすための資質を育てる。	B	
情 報	情報化社会に主体的に対応できる態度を身に付ける。	プログラミングや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得する。	B	B
		情報活用の工夫をし、情報モラルを踏まえた適切な判断ができるようにする。	B	
教 務	授業時間数と授業時間の確保に努める。	出張や急な年休の際の授業交換を徹底し、授業時間を確保する。	A	B
	授業方法の改善や研修を行う。	授業での ICT 活用やグループワークを拡充し、多様な子どもたちへの個別最適な学び、協同的な学びの充実を目指す。	B	
		教員相互の授業参観への参加を促し、授業方法についてのノウハウを共有する。	B	
	諸記録簿を的確に整理保管し、事務の適正化を図る。	諸記録簿の点検整理を円滑に進め、適切に管理する。	B	
	適切な教育課程を編成し、学力の向上を図る。	新学習指導要領への完全移行を踏まえ、教育課程の見直しを開始する。	A	
		新学習指導要領に対応した学習評価について、内規の適切な運用を徹底する。	B	
	総合的な探究の時間の展開を研究、改善する。 定期考査について見直しを行う。	過去2年間の実践内容を振り返り、学年や進路指導部と連携しながら内容の工夫や改善を図る。 考査の回数や科目数、時期について見直しを行い、より適切な学習評価を行う。	B A	
	業務の効率化を推進する。	デジタル採点、Google Classroom やスプレッドシート等の利用拡大により業務の効率化	B	

・地域社会の一員としての自覚を促す課題を提示する機会を増やす。また、課題解決型の課題になるようなパフォーマンス課題を提示できるようにするとともに、生徒の実態に合わせられるようにする。
・実験・実習を衣生活・食生活分野以外にも取り入れる。

・情報活用能力を向上させる
分かりやすい授業づくりや、他校のよい事例を研修する。

・教育課程の更なる見直しを行い、教科間、学科間のバランスを図るとともに、生徒により最適な学びを提供する。
・遠隔授業への対応
・ラーケーションの本来の目的に沿った利活用を促すため、運営方法を見直す。
・DX 実現に向けて、取組を加速させる。

		を図る。			
	学校ホームページを充実させる。	各学年・分掌と連携し、即時的な情報の更新と内容の充実に努める。	B		
	中学校や地域に向けて情報を発信する。	ポスターや学校案内を県内各所に配布する。	B		
		学校説明会の内容の見直し、本校の魅力を伝える。	B		
		中学校訪問を積極的に行い、広報に努める。	B		
	P Cや校内ネットワークの充実に努める。	教職員のノートP C・タブレットの安定的な運用、不具合への迅速な対応に努める。	A		
		日々、ネットワークの状況を監視しながら安定的な運用に努め、不具合等に対して迅速に対処する。	A		
	図書館利用の促進を図る。	館内蔵書を充実させる。	A		
		「図書館だより」などを通して、生徒の読書に対する関心を高める。	B		
		館内の装飾を工夫し、明るく利用しやすい雰囲気作りを目指す。	B		
		館内でのマナーの指導を徹底する。	B		
	委員会活動の活性化を図る。	図書委員全員に係を振り分け、役割分担を明確にして自覚を促す。	B		
		校内・校外での図書委員対象の研修会に積極的に参加させる。	A		
生徒指導	生徒指導方針の共通理解を図り、生徒指導基準を明確化する。	生徒指導部から情報を発信し、生徒指導上の現状と問題点を迅速に周知させる。	A	B	・生徒指導上の問題行動発生時の対応について、教職員間の情報共有が不十分であり、適切な指導体系を構築する必要がある。 ・生徒の問題行動を未然防止する方策を考えていく必要がある。
	規範意識を醸成する。	全教職員が生徒指導に取り組む体制を構築するとともに、生徒への連絡・周知を徹底させ、統一かつ効果的な指導を実現する。	B		
	対話指導の推進を図る。	登校指導、授業前服装指導にとどまらず、学校生活全体においても随時指導するよう心がけ、生徒の規範意識を向上させるとともに問題行動の未然防止に努める。	B		
	基本的生活習慣を確立する。	身だしなみや化粧・アクセサリ等の使用など、容姿指導を重点目標とする。	B		
		基本的生活習慣の確立のため、家庭の協力も得て継続して指導する。	B		
	校則の見直しを図る。	教職員、生徒、保護者の意見なども取り入れながら定期的に校則について見直しを図る。	A		
進路指導	進路意識の高揚を図り、質の高い進路実現を目指す。	大学模擬授業や職業ガイダンスなどの機会をとおして、様々な分野への関心を高める。	A	B	・各学年・各担任が進路指導の当事者として活動できるよう、一層の情報提供を進める必要がある。 ・各生徒が進路決定の主体として自ら行動する姿勢をもって生活できるよう、一層支援する必要がある。
	生徒の実態把握と学力向上を図る。	進路情報交換会、学力検討会などを通して、各学年間の進路情報の共有を図る。	B		
		外部模擬試験を実施し、受験結果をファインシステム等で分析提供し、学力向上及び進路指導に生かす。	A		
		多様化している生徒の進路に対応するため学年との連携を密にする。	B		
	適切な進路情報の提供を行う。	進路情報を多種多様な資料から精選し、各学年へ積極的に提供する。	B		
		進路指導室内の進路資料の充実に努め、生徒・職員共に利用しやすい環境にする。	B		
	集団や社会の形成者としての自主的・自立的な活動を支援する。	生徒同士が協力して生徒会や常置委員会を運営し、学校生活の充実と向上のために諸問題の解決する力を身に着けられるようにする。	B		・学校行事や委員会活動を通して、生徒・クラス・学年同士の関わりを作り、所属意識や連帯感を養う。 学校行事において運営の効率
		ホームルームにける話し合い・合意形成・役割分担を通して、人間としての在り方生き方についての理解を深められるようにする。	B		
		クラスマッチなどの学校行事を通して、所属意識や連帯感を養う。	A		

特 別 活 動	「開かれた学校づくり」を目指す。	「収穫祭」を通して地域との交流を図る。	C	B	化と生徒の満足度のバランスを取りながら、企画運営する。部活動の活性化について、目指すべき目標を明確にする。行事の運営について反省や意見を踏まえ、従来のやり方の見直しを進める。
		生徒会の広報活動やボランティア活動などを通して情報発信を行う。	A		
	部活動のさらなる活発化を図る。	各部活動をPRし部員数の増加を図る。（部活動紹介・壮行会等・活動実績横断幕）	B		
		各部で、学校内・学校周辺の清掃活動等を定期的に行う。	A		
	学校行事を通して、社会的・職業的自立に向けての資質・能力を身に付けさせる。	学ぶことと自己の将来とのつながりを見通せるように、学校行事や家庭及び地域における学習活動を工夫する。	B		
		活動を記録し蓄積することにより、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う。	B		
保 健 厚 生	キャリアパスポートを活用して様々な学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度の養成を図る。	生徒の成長を促す対話的な支援により、自らの学習状況やキャリア形成を見通した自己評価を適切に行わせる。	B	B	・『エピペン』の研修を、保健厚生部主催の研修会で実施する方向で考えていきたい。 ・AED講習や防災避難訓練など、消防署との連携をさらに深めていきたい。
	健康管理の意識を向上させる。	定期健康診断の意義を生徒に理解させる。	B		
		毎月1回保健だより等で最新の健康情報を提供し、生徒の自己管理能力を育成する。	B		
	防災に関する知識を習得させる。	防災避難訓練を実施し、災害時に適切な行動を選択できる能力を育成する。	B		
	教育相談体制を充実させる。	スクールカウンセラーの活用を強化し、専門的な立場からの助言をもらい生徒ひとりひとりの学校生活を支援する。	B		
	生活環境を整備する。	生活環境の整備に努め、より快適な生活ができるようにする。 ストーブの安全管理と適切な使用に努める。	B B		
渉 外	P T Aの生徒指導委員会活動を活発に行う。	生徒が下校する際の安全確保に努めるとともに、服装などの身だしなみを整えられるように、保護者側の視点で生徒理解を深めるための定期的な巡視を行う。 石岡の祭礼などに参加している生徒の健全な育成のために巡視を行う。	B B	B	・保護者（P）及び教職員（T）の負担軽減をめざし、P T A活動の見直し、実施形態の工夫に努め、「持続可能なP T Aのあり方」について検討を継続する。 ・P T A総会の実施形態及当日の日程について再考する（書面審議・電子表決方式の導入、保護者向け進路講演会の実施など）。
	P T Aの広報委員会活動を活発に行う。	生徒の学校生活の様子や学校行事など、全教育活動の取り組み状況を幅広く取材し、広報誌にまとめ保護者へ配布する。 家庭、地域との連携を図るためP T A広報誌「山王」を年1回発行し、実りある広報活動を行う。	B B		
	P T Aの学年委員会活動を活発に行う。	保護者から質問・要望などを受け、十分に保護者の協力を得ながら円滑な学年委員会活動を行う。 各学年の生徒の実態に合わせ、特色ある活動を行い、人間性豊かな生徒の育成にあたる。	B B		
	その他のP T A活動を活発に行う。	全国高P連、関東高P連、県高P連、県南高P連の研修会などの活動に参加し、本校P T A活動の発展と向上に努める。	A		
	P T A支部活動の見直しとP T A規約の改定	P T A支部の活動状況を踏まえて、廃止を含めたP T A支部の今後のあり方について検討を進める。	A		
	茨城県予算の適正な執行を	公金を扱っているという認識のもと、適正な事務処理を行うことは勿論コスト意識に基づ	B		
					・働き方改革を推進していく

事 務	図る。	き早期かつ効果的な予算執行を心がける。			ために、積極的に業務の見直しを行い、より効率的な業務処理を進めていく。
	施設設備の適正な管理を実施する。	事務職員と技術職員及び農場職員が連携を図り、施設等の修理箇所への対応を早期に実施する。また、学校施設設備による事故が発生しないよう、職員全員で校内巡視等を実施していく。	A		
	事務室の業務効率化を図る。	日々の業務の課題や問題点を洗い出し、より効率的に進める方法を検討し時間的なコスト削減を推進していく。	A		
農 業	学力の向上を図る。	教材の工夫や ICT の活用により授業内容へ興味を持たせ、農業学習への意欲を高める。	B	B	・農業学習への興味・関心、学習意欲を高めるために、更なる教材等の工夫に努める。 ・様々な進路に対応できるよう基礎学力の定着を図り、大学進学 of 早期個別指導につなげる。 ・講演会や校外学習、インターンシップを活用し、キャリア教育の推進を図る。 ・プロジェクト発表、意見発表への参加を継続的に支援する。 ・地域に開かれた学校、農業教育理解を推進するための方策を検討する。 ・老朽化した設備や機械等を適宜更新・修繕し安全管理を図る。 ・研修等を実施し、職員の指導力、技術力向上を図る。
		実験実習の効果的なフィードバックを授業で行い、学習内容の定着を図る。	B		
		外部試験を活用して学力を把握し、習熟度に合わせた指導を行う。	B		
		授業や実習にグループワークやレポート等を積極的に取り入れ、コミュニケーション力・問題解決力・表現力の育成を図る。	B		
	農業に関する興味・関心を高め、農業の意義や役割を理解させると同時に、専門的な知識と技術の習得を推進する。	様々な場面で農業と環境の関わりを意識させ、「食」、「農」、「命」の大切さを理解させ命を育む学習を展開する。	A		
		資格取得を推進する。（各種技能検定・講習会の受講等）	A		
		社会人講師等を積極的に活用し、技術の向上を図る。	A		
		整理整頓および安全確保を徹底する。（実習時の実習服・ヘルメット着用の徹底）	B		
	農業クラブ連盟の活動を推進する。	上級学校や農業関連施設の訪問、インターンシップを通して、キャリア教育を推進する。	B		
		生徒主体の運営を支援し、「科学性」「社会性」「指導性」の育成を行う。	A		
		FFJ 検定試験の受験を積極的に支援する。	A		
	上級学校への進学を支援する。	プロジェクト発表・意見発表に向けて、継続的に研究活動を支援する。	B		
		早期からの個別指導を充実させ、四年制大学等への進学を支援する。	B		
	地域に開かれた農場を目指す。	様々な行事をとおして、地域との交流を深める。	B		
		地域や異校種間の交流（近隣市町村施設、特別支援学校、幼稚園等）を推進する。	B		
	施設設備を整備し、安全かつ適正に運用する。	生徒が安心して授業が受けられるように、農業施設の維持管理（更新・修繕）を行う。	B		
		環境に配慮した実習を行う。環境負荷の軽減に配慮した圃場運営を行う。	A		
		農薬の管理を確実に行う。 （購入・保管・廃棄・保管庫の施錠・保管庫の鍵の管理・記録簿への記入）	A		
		備品や農機具の管理を確実に行う。（保管・整備・購入・廃棄）	A		
		消毒・施肥・剪定・収穫を適期に実施し、梨園・温室等を良好な状態に保つ。	A		
		有機 JAS 規格に適合するように葡萄園の管理を行う。	A		
		生産管理を適切に行う。	A		
	職員研修の充実を図る。	積極的に研修を行い、指導力・技術の向上を目指す。	B		
	基本的な知識や技術の習得のために、魅力的な授業を	栽培作物を精選しプロジェクトの充実を図る。	A		・座学で知識を身に付け、その栽培知識を活用する能力を
		栽培をとおし命の大切さを学び、基本的知識を習得し農業への関心を高める。	A		

園 芸	実践する。			A	培うことができ、農業への関 心も深まり、農業系への進学 希望者も増加している。 ・資格取得では、ビジネス文 書実務検定で1級取得者を出 すことができた。また、ビジ ネス文書実務検定で多くの生 徒が2級取得するなど成果が あがっている。英語検定では、 2年生で数名3級合格者を出 し、準2級を受検する生徒も 出ている。さらなる上級資格 の合格を図る。
	資格取得を推進する。	日本農業技術検定試験3級取得100%（卒業時）を目指す。	B		
		ビジネス実務検定3級取得100%(卒業時)を目指す。	A		
		漢字検定2級・実用英語技能検定3級以上取得（卒業時）を目指す。	B		
	専攻ごとに魅力ある授業を 展開する。	多くの品種を導入することにより基礎的栽培技術を学び野菜栽培への興味・関心を高め る。【露地野菜】	A		
		施設栽培により高度な技術を学び、今後の栽培学習の向上を図る。【施設野菜】	A		
		環境に優しい果樹栽培を実践し、有機JASへの知識・技術を深める。 IOTやICT技術を活用し、管理作業軽減のための技術を学ぶ。【果樹】	A		
社会人講師を活用し、最新の技術を習得し草花への関心を高める。 フラワーアレンジメント検定3級取得100%（卒業時）を目指す。 【草花】		B			
造 園	基本的な知識や技術の習得 のために、魅力的な授業を 実践する。	設計を具体化する実習を通して作庭の喜びを感じ、環境緑化や造園土木への関心を高め る。	B	B	・造園技能検定では、3級の 合格率（2・3年合計70% 以上）も向上してきている。 今年度も2級の合格者を出す ことができたが、最低5名以 上を目標とする。 ・個性も大切だが、集団の中 の1人として行動できる大切 さを身に付けさせたい。 ・様々な学びを応用できるよ うな力を付けさせたい。 ・考えて学べるよう授業展開 の工夫をしていく。
		校内外の教材を積極的に実験実習指導に取り入れ、プロジェクト学習の充実を図る。	B		
		社会人講師やマイスター制度を積極的に活用し、基礎的な造園技術の向上を図る。	A		
	資格取得を推進する。	造園技能士3級の資格取得100%（卒業時）を目指す。	A		
		造園技能士2級取得へ向けた指導体制の確立を図る。（合格目標5名以上）	B		
		マイスター派遣事業による実技指導を受け、基礎から応用まで幅広い技術を身につける。	A		
	施設・教材の管理を適切に 行う。	各圃場の整備や機械の点検・整備、道具や農具の安全管理に努める。	A		
		樹木見本園の剪定等を定期的の実施し、生きた教材として有効活用する。	A		
	専攻ごとに魅力ある授業を 展開する。	多種多様な造園材料の特性や性質を学び、美的かつ機能的な材料の選択、使用方法を身 につける。（材料）	B		
造園技術理論や施工・管理実習を通して、利用する人や目的を考えた園を造る。（施工）		B			
製図やCADの基本操作を習得し、人と自然が共生する環境を設計する。（計画）		A			
1 学年	高校生としての自覚および 基本的生活習慣の確立を図 る。	学校生活のあらゆる場面を活用して、高校生としての自覚を促すとともに、挨拶・身だし なみ・清掃の指導を徹底する。	B	B	・基本的生活習慣や規律意識 の定着を図る。 ・修学旅行等の充実した学校 行事の実施など豊かな人間性 の育成を図る。 ・職業観の育成を図る。 ・授業を重視した生徒一人一 人の学力向上を図る。 ・進路決定のための個々に応 じた支援を図る。
		遅刻カードを活用して基本的生活習慣の確立を図るとともに、規範意識を養成する。	B		
		家庭との連携および情報共有を図り、問題行動等の未然防止に努める。	B		
		個別面談を実施し、生徒理解に努める。	A		
		学年内・教科内での連絡を密に取って情報を共有し、生徒の指導に活かす。	A		
	自主的に学習に取り組む態 度の育成および進路意識を 高める。	タブレットや学習記録表を活用し、自己管理能力の育成を図る。	B		
		進路指導部と連携し、職業ガイダンスなどを通して進路情報の収集を図るとともに、キャ リア意識を高揚し、将来に対する目標を持たせる。	B		
		自宅学習課題、小テスト等を工夫して家庭学習の習慣化を図る。	A		

		部活動、学校行事への積極的な参加を促し、生徒の向上心や達成感を促進する。	B		
		平常課外や長期休業中課外等を実施し、学力向上を図る。	A		
2 学年	規律ある生活習慣を定着させる。 規範意識を高め、自分のみならず他者を尊重する態度を育てる。	家庭との連携および情報共有を図り、問題行動等の未然防止に努める。	B	B	・進路決定に向けた取り組みの充実を図る。 ・推薦希望者規定の確認をする。 ・成人者としての自立支援を図る。 ・特別編成授業の実施内容について検討する。 ・模擬試験の実施回数、使用問題の精査をする。 ・各教科等からの予算請求、承認方法等について検討する。
		個別面談を実施し、生徒理解に努めるとともに適切な指導援助を行う。	A		
		服装や頭髮等の身だしなみ指導を徹底し、あいさつを励行する。	B		
		修学旅行等の学校行事を通じて望ましい集団づくりに努める。	B		
		特別活動やホームルーム活動等を通して、豊かな人間性の育成に努める。	B		
	主体的に学習に取り組む態度を育て、着実な学力の向上を図る。	生徒が落ち着いて授業に取り組める環境づくりに努める。	B		
		授業展開の工夫と家庭学習の習慣化を図り、日々の授業に積極的に参加する態度を育成することによって、進んで学力の向上に取り組む姿勢を持たせる。	B		
		学年内・教科内での連絡を密に取って情報を共有し、生徒の指導に活かす。	A		
	常に進路への意識を持たせ、進路先を明確にさせる。 進路決定のための個々に応じた具体的支援を行う。	キャリアデザイン力を育成し、自分の適性と将来について考えさせ、進路実現を支援する。	A		
		スタディサポートや模擬試験を活用し、学力の把握と学習に対する意識の向上を図る。	A		
		進路指導部と連携し、生徒の具体的思考や行動を促す進路情報を発信する。	B		
		平常課外や長期休業中の課外等に積極的に参加させ、学力を向上させる。	B		
3 学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の定着を図る。	欠席・遅刻・早退等について、家庭との連絡を密にし、連携を図る。	A	A	・新規カリキュラムで3年間が終わり、反省とカリキュラムの見直しを図る必要がある。 ・農業科での原級留置が、現実的に受け入れが可能であるかどうかを検討し、受け入れ体制の明確化を周知記載しなければならない。 ・タブレットでの学習を促すためにスタディサプリなどを行なったが、課題以外で進んで活用する生徒は、全体の40%程度であった。
		個別面談を実施し、生徒理解や学習状況の把握に努めるとともに、適切な指導援助を行う。			
		社会性を意識させ、服装や頭髮等の身だしなみの指導を徹底し、あいさつを励行させる。	B		
		学校行事やホームルーム活動および部活動等を通して、豊かな人間性の育成に努める。	A		
	主体的な学習態度の育成および確実な学力の向上を図る。	生徒が落ち着いて学習に集中できる環境作りに努める。	A		
		予習・復習を励行し、授業を工夫して主体的に授業に取り組ませる。	B		
		課題を工夫するなど、家庭学習の習慣化を図り、進んで学力の向上に取り組む姿勢を持たせる。	A		
		学年団および教科内での連絡を密にし、情報を共有することによって指導に活かす。	B		
	進路指導の充実および進路希望の実現を目指す。	各種ガイダンスを実施するなどキャリアデザイン力を育成し、自分の意志で進路を実現させる意識を持たせる。	A		
		スタディサポートや模擬試験を活用し、学習に対する意識を向上させる。	A		
		進路指導部と連携して組織的・計画的な指導を推進し、生徒の積極的思考や行動を引き出す。	A		
		平常課外や長期休業中における課外等に積極的に参加させ、学力を向上させる。	B		
		面談を通して生活状況と学習状況を把握し、自己実現のための支援を行う。	A		

※ 評価基準： A 十分達成できている。 B 達成できている。 C 概ね達成できている。 D 余り達成できていない。 E 達成できていない。